

メーデーとは

労働者の祭典。労働者が団結して権利を要求する日であり、世界的に毎年 5 月 1 日がメーデーとされている。



メーデーのきっかけとなったのは、1886 年 5 月 1 日、アメリカの合衆国カナダ職能労働組合連盟(後のアメリカ労働総同盟)が 8 時間労働制を要求して行ったストライキ。当時の労働者は、低賃金で 1 日 12 時間以上働かされるなど、過酷な生活を強いられており、これを改善するために労働者自らが立ち上がった。3 年後にパリで開かれた第 2 インターナショナル創立大会では、8 時間労働制実現のデモを行うことが決議され、さらに 5 月 1 日を労働運動の日に設定した。これ以降、メーデーは国際社会に広がることとなった。

日本で初めてメーデーが行われたのは、1920 年、東京・上野公園。集まったおよそ 5000 人とも 1 万人ともいわれる労働者らが、8 時間労働制や最低賃金法の制定などを訴えた。しかし、世界大戦の足音が近づく中、36 年には青年将校らによる 2.26 事件が発生。メーデーは禁止され、太平洋戦争が終わる 45 年までメーデーが開催されることはなかった。だが、終戦と同時に復活。戦後初めての 46 年メーデーでは、「働けるだけ喰(く)わせろ」がスローガンに掲げられ、盛大に開催された。近年、経済が安定し、5 月 1 日がゴールデンウィークの長期休暇に含まれるようになって以来、メーデーへの参加者は減少。若い世代にはメーデーを知らない人も出てきているが、「8 時間は労働、8 時間は休息、そして残り 8 時間は自分たちの自由な時間のために」というメーデー誕生当初の主張は、いまでも語り継がれている。

メーデーにまつわる事件としては、52 年に起こった「血のメーデー」がある。サンフランシスコ講和条約、日米安全保障条約への抗議を含んだこの大会では、デモ隊と警官隊が皇居前広場で激しく衝突。デモ隊から死者 2 人、双方から 1500 人以上の負傷者を出す流血の大惨事となった。



ちなみに、ヨーロッパではメーデーを労働者の日としてだけでなく、「五月祭」を楽しむ祝日としており、花の冠をかぶせた「五月の女王」を仕立てる伝統行事などが各地で開催される。